

第55回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	小山ゼミ	チーム名	Cチーム
タイトル	企業不祥事での影響と信頼回復に関する研究		
テーマ群	a) 理論・情報 e) 産業・企業		
メンバー	福田竜也 渡邊啓晶 藤谷有里 宮口颯太 大石悠樹 吉田琉翔		
研究計画内容	【研究背景】 1990 年代後半から SNS が大衆化し、企業は従来の経営リスクマネジメントに加え、SNS・メディア分野のリスクマネジメントが必須となっている。 炎上の超高速化と影響の増大： 昭和時代の炎上が数日かけて収束したのに対し、令和時代では数時間で全国に拡散し、即座の謝罪や活動休止が求められるなど、企業の信頼回復にかかる時間が長期化し、影響が大きくなっている。 【研究内容】 リスクを「影響×頻度」で評価し、従来の回避・低減に加えて、リスク発生源から絶つといった新しい国際規格(ISO31000)の考え方にに基づき対応を検討する。 炎上を種類分けし、それぞれの企業の炎上でなく企業の不祥事がどのようなとらえられ方をしているか、企業のリスク管理、リスクマネジメントについてアプローチする。 期待されること ・ SNS 時代の炎上に対する企業の効果的な危機管理戦略を提言する。 ・ 炎上による信頼回復にかかる時間を定量てきに比較・分析し、現代社会における企業活動の持続可能性に貢献することを目指す。 【期待される効果】 ・ SNS 時代の炎上に対する企業の効果的な危機管理戦略を提言する。 ・ 炎上による信頼回復にかかる時間を定量てきに比較・分析し、現代社会における企業活動の持続可能性に貢献することを目指す。 【参考文献】 三井住友フィナンシャルグループ https://www.smfg.co.jp/company/organization/risk/ PERSOL HP https://www.persol-group.co.jp/service/business/article/397/ 総務省 ネット上での炎上を巡る議論 https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r01/hml/nd114300.html 田中辰雄・山口真一(2016 年)『ネット炎上の研究』.勁草書房.		